

◆令和2年度 岐阜連携都市圏ビジョン懇談会 開催概要

日 時	令和3年1月28日(木曜日) 午前9時30分から午前10時35分まで
場 所	※Web会議として開催
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 連携事業の取組状況について ・令和2年度 重要業績評価指標（KPI）達成状況について ・ビジョンの改定（案）について
出席委員	<p>座長 福士 秀人（国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学） 副座長 徳広 圭子（岐阜聖徳学園大学短期大学部） 委員 國島 正人（株式会社十六銀行） 委員 川瀬 勝義（岐阜信用金庫） 委員 野田 寧宏（社会福祉法人瑞穂市社会福祉協議会） 委員 河口 康子（社会福祉法人北方町社会福祉協議会） 委員 堀江 弘美（岐阜市PTA連合会） 委員 林 直樹（公益社団法人岐阜県バス協会） 委員 岩佐 哲司（ぎふ農業協同組合） 委員 河尻 満（岐阜商工会議所） 委員 宇野 瞳（山県市商工会） 委員 黒田 隆（岐南町商工会） 委員 岡田 悠子（笠松町商工会） 委員 青木 輝泰（本巣市観光協会） オブザーバー 村田 直也（岐阜県清流の国推進部市町村課）</p>
議事概要	<p>委員からいただいた主な意見</p> <p>(1) 令和2年度 連携事業の取組状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ、アフターコロナの中で、観光のあり方が変わり、自然を活かしたグリーンツーリズムなど、自然を相手にする観光が増えてきている。 ・教育、福祉、保育の分野では、量的にとても充実してきており、これからはより質的な深まりにシフトしていただきたい。例えば、子どもホッピカード事業は、LINEを使うなど、利用者目線、市民目線に立った使いやすいものとなるよう質の向上をお願いしたい。 ・岐阜市の5年先を行く教育やエールぎふ等の精神面のフォローを連携都市圏にも広げていくことで、多くの若い方が住みたいと思えるの

ではないか。

- ・アフターコロナを見据えて、商工会や行政との繋がりを持って自分たちの事業を前向きに進めていきたいという思いから商工会の会員が増えている。

各事業、コロナ禍の中で、思うように進まないことがあると思うが、アフターコロナを見据え、事業の連携を模索していただきたい。

- ・外出自粛や在宅勤務で、地域交通が大打撃を受けており、地域公共交通をどう維持していくかを考える必要がある。都市間輸送や、それを観光に活かすような交通網、観光の 2 次交通などを検討していただきたい。

- ・「ぎふ～ど」が産地化のきっかけになれば良いと思う。

(2) 令和 2 年度 重要業績評価指標 (KPI) 達成状況について

- ・KPI は、事情を踏まえて再検討した方が良いのではないか。例えば、観光案内所の利用者数は、コロナの影響を受け激減しており、令和 4 年の目標がこれで良いのか疑問である。
- ・ダウンさせる見直しもあるが、アップさせることも精査していただきたい。

KPI は現場のモチベーションにつながる。KPI で「×」がついても、現場の努力不足ではなく不可効力な場合もあるので、見直しをお願いしたい。

- ・コロナだからできないではなく、今後もコロナが続くという見込みの中で、どのように進めているかということが大事である。
- ・KPI の達成状況については、それぞれ理由があり、コロナの影響もあるだろうし、そうでない場合もある。数字の裏に隠れた原因分析を KPI と合わせてしっかりやっていただきたい。